

## は じ め に

静岡県立大学環境科学研究所は平成9年4月に創立し、平成17年4月で9年目をむかえました。当研究所は大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻の土台として、「自然と人間との調和」を理念に、地域社会の環境問題の解明と健康で快適な生活環境の創造に寄与する研究、環境についての知識の普及と高度な技術者・研究者の育成、環境問題に関する国際協力・交流を行うべく創設されました。この目的に向かって研究所員一同、日夜、研究・教育に邁進しており、日々の研究・教育活動、研究所事業活動等を年報として公表してまいりました。この年報は、平成17年1月から12月までの研究所におけるさまざまな活動をまとめたものです。17年度当初の大きな動きは、平成17年4月、3研究室に新しい主任教員が着任したことです。反応化学研究室では、大石悦男教授が退官され後任に坂口真人教授が、水質・土壌環境研究室では相馬光之教授が退官され坂田昌弘教授が、光環境生命科学研究室では、五島廉輔教授が退官され伊吹裕子助教授が着任されました。各研究室とも活発な研究・教育活動を開始しました。また、平成17年4月1日から「地域環境啓発センター」が発足し、今まで、各機関でさまざまな地域環境啓発活動が行われてきましたが、それらを情報整理して啓発活動が一層効率的に実施されることが期待されます。

平成16年度の第13回日本環境化学討論会に引き続き、17年度では第42回日本水処理生物学会が11月23日（3日間）、静岡市のグランシップで開催されました。大会会長は岩堀恵祐教授で、実行委員として研究所教員も参画し、開催期間中300余名の参加者があり活発な討論が行われました。所員の専門研究分野を生かしたプロジェクト研究への参加を企画しておりますが、本年度は、静岡県戦略課題研究プロジェクト「快適空間 《佐鳴湖》の創造」に、当研究所の5研究室が参加して、佐鳴湖を浄化すべく研究しています。可能な限り所員全体が参加できるような大型プロジェクト研究に、今後とも引き続き挑戦してゆきます。一方、環境科学研究に興味をもつ優秀な学生の確保が、大学院環境物質科学専攻の重要な課題です。生活健康科学研究科では、16年度より、従来の選抜試験に加えて自己推薦入学を実施しました。自己推薦入学を有効に活用して、ペーパー試験のみでは得難い環境研究に興味を抱いている学生に入学してもらい、入学後個性を伸ばす教育を行って、環境に携わる有能な研究者や職業人を育てたいと考えております。17年度は10名余の自己推薦入学希望者があり、今後とも広報等を充実させ優秀な学生を確保したい。

環境問題解決のためには、研究成果を社会に還元するとともに、一般県民の知識を深め理解と協力を得ることが大切です。当研究所では、地域環境啓発センターを中心に、社会貢献事業の一環としてさまざまな環境啓発活動を行っております。本年度の主な事業は、環境科学研究所一般公開、夏休み親子環境教室、しずおか環境・森林フェア（静岡県環境森林部）への出展、環境研究交流しずおか集会「水環境保全の新たな視点」、環境科学講座「近未来の環境を考える」等々、さらには、個々の所員の公的審議会への参加など積極的に社会貢献に努めております。

目前に迫った法人化並びに大学改革に向け、研究・教育環境を整備、活性化することが今後の課題です。主な目標として、①国内外諸研究機関や環境関連企業と積極的に共同研究を推進し、外部資金の導入や研究業績のさらなる向上を図る、②環境科学に興味のある優秀な学生を確保するため、広報活動等の充実を図る、③社会人教育（特に、環境関連研究機関に従事する研究者の博士後期課程における再教育等）に貢献する、④フィールドワークを取り入れたカリキュラムを充実する。⑤環境情報科学系分野の研究・教育を充実するなど、研究所員が一丸となって前進しています。

年報の発行に当たり、学内外からのご協力に感謝いたしますとともに、ご一読頂いた皆様のご意見をいただければ幸いです。

平成17年1月24日

静岡県立大学 環境科学研究所長  
寺尾良保